

風の萌

特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第 036 号

2016 年 12 月 15 日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

鹿児島大会終了、 吉井大会長、有難うございました。

鹿児島大会はおかげさまで成功裏に終了することが出来ました。
昨年の北海道に続いた鹿児島大会、日本の北と南の両地方で行われた大会ですが、地元の方々の協力もあり多くの方々の参加を頂きました。
これも吉井大会長をはじめとするスタッフの皆様の努力の賜物で、本当にご苦労様でした。
終了後、鹿児島大会事務局より提出された報告書の一部を掲載させていただきます。

鹿児島大会報告 (抜粋)

鹿児島大会事務局

—今回は、「ご近所」が主役の地域包括ケアを重点におき、基調シンポジウムとして、「人生100年初代の心意気」として企画しました。基調シンポジウムは、樋口恵子さん、上野千鶴子さん、三浦公嗣さん、大会長、加倉副大会長の4名で行われました。人生100年を生き抜く為にはどのようにしたら良いか？活発な議論が行われました。会場は満席で会場の床に座らないといけない程の盛況でした。

市民公開講座①では、山崎史郎さん（前・内閣官房地方創世総括官）、雄谷良成さん、山崎亮さん等4名のシンポジストが、今こそ「ご近所」が主役のまちづくり～地方創世を考える を議論されました。

市民公開講座②では、唐澤剛さん（内閣官房地方創世総括官）はじめ、開催地鹿児島での地域包括ケアの取り組みが紹介されました。その他、シンポジウムでは、医療・介護・保育人材枯渇時代を突破する戦略として、香取照幸さん（前・厚生労働省雇用均等・児童家庭局長）を



始めとする3名のシンポジストが発表されました。その夜の懇親会では、かつての介護保険のY・K・Kが一同に集うまとない機会でした。（中略）

理事会企画への参加も多く、本ネットワークの関心の高さが伺えました。

全体を通し、在宅医療の九州各地の取り組みの連携に関するシンポジウムや鹿児島ならではの企画として「医師の居ない地域住民の暮らし」と題してのシンポジウムや在宅における小児医療の課題等、鹿児島のみならず全国の在宅医療に関する問題を有意義に考える大会となったと実感しています。

鹿児島大会

鹿児島大会では9カテゴリーに分かれ発表が行われました。昨年発表を通じ活発な交流が行われました。更に、カテゴリー別に

『フォローアップ推薦』

<p>在宅生活の継続</p>	<p>吉村 和也</p>	<p>在宅医療における往診頻度にきよする分析がなされていた。来年さらに進化した発表をしていただきたい。</p>	
<p>在宅生活の継続</p>	<p>瀬戸口 司</p>	<p>課題に挙げていた男性参加に対する取り組み、送迎に関するの解決を継続して考えて発表していただきたい。</p>	
<p>訪問&通所サービス</p>	<p>松田真奈美</p>	<p>笑いヨガは、その方の笑いを引き出し、身体的・精神面に影響し、とても効果的な取り組みだと思いました。</p>	
<p>訪問&通所サービス</p>	<p>和田 康一</p>	<p>軽度だからこそその本人のこだわり、価値観があると思います。それを気づきから援助の継続につながることが素晴らしい。</p>	
<p>訪問&通所サービス</p>	<p>伊藤 京香</p>	<p>介護度が下がり、支えられる側から支える側へまわる仕掛け作りを行っていることが素晴らしいと思いました。</p>	
<p>緩和ケアと看取り</p>	<p>吉澤あずみ</p>	<p>看取りケア確認シートの報告のフロー・入居者と家族をつなぐ支援が入居者の家族の間がどうひろがっていくか家族の支援が看取りにつながっているのか</p>	
<p>人材育成・教育</p>	<p>佐藤 祐紀</p>	<p>上園 卓哉</p>	
<p>主体的な取進内容、教育姿勢等が素晴らしい。</p>			
<p>地域で支える認知症ケア</p>	<p>石津 公基</p>	<p>今年2月からオランダでも注目を集めている「農場ケア」に取り組み、デイサービスの利用者の方々のMMSEが平均2~3点改善されたとの報告があった。ただし、ADLの改善がほとんどみられないとのことであり、今後さらに継続されることでMMSEとADLの改善に変化がみられることを期待したい。</p>	

<p>口腔ケアと栄養管理</p>	<p>藤田 美香</p>	<p>ユニットごとの調理職・栄養士を配置しそれを特養で行っていること、今後引き続きフォローしてみたい。</p>	
<p>口腔ケアと栄養管理</p>	<p>古川 慎太郎</p>	<p>BCAAの取り組みの今後の成果を引き続きフォローしてみたい</p>	
<p>これからの地域包括ケア</p>	<p>植村 貴子</p>	<p>社協の社会貢献としてはじまった「青色防犯パトロール隊」「ないとカフェ」の今後の展開を次回もきいてみたい。</p>	
<p>これからの地域包括ケア</p>	<p>黒瀬 義央</p>	<p>福の地域に広がる試みとしての認知症の方のトータル支援パスの今後の展開を次回もきいてみたい。</p>	
<p>これからの地域包括ケア</p>	<p>原田 俊樹</p>	<p>社福の社会貢献として始まった「ドライブサロン」の今後の展開を次回もきいてみたい。</p>	
<p>新しい試み</p>	<p>左高 裕隆</p>	<p>発表内容がタイムリーで新しく、発表もはっきりとわかりやすくて良かったです。在宅復帰をすすめる上で参考にすべき事例。今後が楽しみです。</p>	
<p>新しい試み</p>	<p>大見まゆみ</p>	<p>介護の場での人手不足は今後重要な国の問題であり、当NPOとしても外国人雇用（スカラシップ）をいかにすすめるかの動向をさがりたい</p>	
<p>新しい試み</p>	<p>野村 秀樹</p>	<p>着眼点が非常に興味深い。結果はまだ十分ではないが、今後の研究が期待されます。発表も大変わかりやすく、介護を科学するという視点ですばらしかったです。</p>	
<p>薬と生活</p>	<p>赤池 剛</p>	<p>残薬を多職種とともに良い方向、結果を出そうと努めている。</p>	

実践交流会の報告

を上回る 92 演題の応募があり、理事及び地元鹿児島からの 2 名の座長を中心に進行され、優秀賞選定、フォローアップ推薦が発表されました。コメントは座長の推薦文です。

『優秀賞』

在宅生活の継続

大竹 功剛

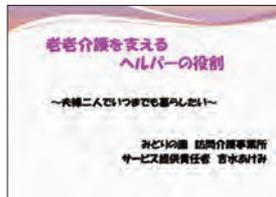
摂食嚥下アプローチを地域の他事業所の異なる職種の人々と共に他職種連携ですすめています。



訪問&通所サービス

吉水 あけみ

老々介護を在宅で支えることは大変である。利用者のみならず高齢の介護者への支援も行っている実践はすばらしいと思いました。細かい事への気づきから支援へつなげていること、またレスパイトなどへの配慮などで在宅ケアが継続していると思います。



緩和ケアと看取り

三木 次郎

がん患者など終末期の患者さんは薬剤内示、全身状態の悪化により味覚障害・口腔乾燥などの口腔事情が食摂取できず、QOLを落とすことが多い、その中で多職種協働で訪問歯科による口腔ケアで最期までおいしく食べることにこだわった報告はすばらしいものでした。



人材育成・教育

吉田 理

スライドの実践に基づいた理解しやすい内容、発表態度等、Good!

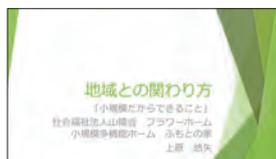


地域で支える認知症ケア

上原 悠矢

地域との関わりに運営推進会議の力や世話役の人脈により地域とのつながりの報告を聞きました。

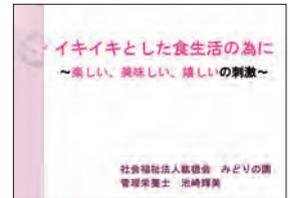
- ①まさに本日の午前中の講演から「司令塔」がいるかどうかにかかっているとありました。
- ②「司令塔」がしっかりリーダー格となっておられ「社会性の維持」につながりフレイル予防が出来ると思いました。



口腔ケアと栄養管理

池崎 輝美

施設でありながら常に在宅を意識した「食」に対する取り組みがとても素晴らしかった。



これからの地域包括ケア

中島 麻衣子

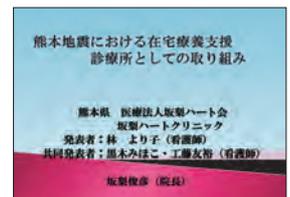
地域包括支援センターは社協、社会福祉法人が委託を受けるのが一般的と思っていたが、診療所が受託されているのは面白いと感じた。相談機能のみならず、地域の拠点としての役割が担えと考えさせられました。



新しい試み

林 より子

今回、熊本地震における状況を大変わかりやすく話していただき、壮絶な現場に居合わせたように感じました。今後、どこに起こるかもしれない事態にいかに対応すべきかを体験できました。冷静な対応の必要性を痛感しました。



薬と生活

菅谷 優美

小児障がい者への薬剤師の今後の活躍が感じられる発表でした。継続発表としても推薦したい。





地域包括ケアの実現にむけてネットワークにできること

鹿児島大会に合わせ「在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 第15回通常総会」が開催され、今年度の事業活動として以下の5つの事業が承認されました。

- ① 海外スカラーシップ支援事業
- ② 情報発信事業
- ③ 東アジア福祉・医療協働推進事業
- ④ 地域包括ケアの実現にむけてネットワークにできること
- ⑤ 認知症の重度化予防実現塾及びケアマネジメント実践塾

このうち④の「地域包括ケアの実現にむけてネットワークにできること」について、今回ご紹介させていただきます。

まだまだ試行錯誤の部分も多い「地域包括ケア」に対し、『全国ネットワーク』である当会として取り組むという事はある意味で当然の事かもしれません。そこで昨年まで行ってきた事業「制度に対する現場からの提案」に対し、より実質的な取り組みを含めた活動を加えて取り組む事に致しました。

2016年度事業計画資料4

*事業名	地域包括ケアの実現に向けてネットワークにできること	
*事業内容	地域で活躍をしている、ネットワーク会員にアンケート調査等により、地域の実情を調査して、各地域の取り組みを検討することで、地域包括ケアシステム構築への道筋を考える。	
*当該事業の必要性 (社会的背景)	2025年、団塊世代が後期高齢者に突入する高齢者人口の急増に備えて、地域包括ケアシステムの構築はわが国の緊急の課題である。各地域でシステム構築が順調に進んでゆく方法を探るために本事業は必要性が高い。	
*受益対象者	ネットワーク会員、市民、サービス提供事業者、市町村	
*期待される目標 (アウトカム)	地域包括ケアシステム成功事例や困難事例を検討比較することで、システム構築の標準的な工程を示すことを目標とする。	
*具体的成果 (アウトプット)	地域包括ケアシステム構築により、当会の理念である「安心をして子育てができ、老いても障がいがあっても自分らしく暮らすことができる地域コミュニティの創造をそれが私たちの使命です」を各地域で行ってゆくことができる。	
投入 (インプット)	人	理事によるプロジェクトチームを構成する。
	資金	
*実施体制	大石理事をプロジェクトリーダーとして、他の理事の協力も得てすすめて行く。	
協力者	地域包括ケアシステム構築を推進する市町村	

本事業活動のリーダーをお願いした大石理事よりこの事業計画に対し意味・背景・具体的活動等についてコメントを頂きましたのでここに掲載させていただきます。

「わが街の地域包括ケアシステムづくりは進んでいるのか？」これは多くの市民にとって非常に気になる課題ではないでしょうか。団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けて、各市区町村では「地域包括ケア・システム」の整備が急がれています。しかしながら、実態としては大きく進んでいないのが現状です。厚生労働省の調査によると、在宅医療・介護連携推進事業に関しても8つの事業項目を全て実現できている市区町村は全体の2.5%に留まっています。

NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークには、「地域包括ケアシステム」という言葉が出来る以前から、高齢者や弱者が地域で自分らしく過ごすことを支援し、必要な事業を独自で展開してきた団体、個人が数多く加入しています。本事業は、先駆者として地域に関わっ

活動内容

① 調査項目決定

『地域包括ケアシステムに関する調査項目』

② 調査票作成

『地域包括ケアシステムに関するヒアリング調査票』

③ 活動メンバーによるそれぞれの地元行政へのヒアリング調査

④ 回収、分析・評価

『在宅医療・介護連携推進事業進捗確認表（通信簿）』

てきた立場から、それぞれの活動地域で「地域包括ケアシステム」づくりの進捗状況を測ります。具体的には、在宅医療・介護推進事業の8項目に沿って作成した調査票（「通信簿」）を用い、理事を中心に、そのネットワークや経験を活用し、複数の市区町村において市区町村の進捗度合いを測り、推進が遅れている場合はその原因を探ることを計画しています

この結果を踏まえ、地域包括ケアシステムの推進のために何が必要かについての意見を取りまとめ、厚労省、介護保険部会等に問題点をすることを目指しています。本年度の事業の結果、同様な調査を全国的に展開する価値があるという結論に至れば、拡大版の調査等の提案も併せて行いたいとも思っています。調査へのご協力、是非宜しくお願いします。

大石佳能子

上記①調査項目 ②調査票 ④分析評価 に関する文書は、今回の活動メンバーに対しそれぞれ配布されておりますが、会員のご希望があれば配布いたします。それぞれの地域において参考にしていただければと考えています。

リレー寄稿

前号までは会長を始めコアメンバーによる寄稿をリレー形式で掲載させて頂きました。今号より新しい企画として「地域包括ケア……地域の現状」というタイトルで主として会員間によるリレー寄稿を始めます。「地域包括ケア」に対するそれぞれの地域の具体的な取り組みについて会員の方から紹介していただきます。なお、執筆していただいた会員より次を指名していただく形式といたしました。内容については上記に関わるものであれば特に限定いたしません。ご自由な形式・文体で1200字程度でお願いできればと存じます。



「地域包括ケア……地域の現状 ①」 — 徳島県・三好市 —

在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
理事 村山 善紀



当地域の概要

三好市は四国の市町村の中で一番行政面積の広い市であり山間部が多く、山間部と都市部により人口構造の状況が大きく異なります。社人研（国立社会保障・人口問題研究所）の資料では、2015年には26,500人弱の人口が2040年には14,000人弱となり、高齢化率は40.6%が51.9%に達すると推測されています。市内にある442地区あるうち179地区（40.5%）は65歳以上が50%以上の限界集落で、集落のコミュニティの維持が非常に難しい状況となっており、人口減少時代に合った地域社会づくりが求められています。

当地域の医療・介護体制

三好市の医療施設は中核となる徳島県立三好病院があり、2014年に新棟が完成し急性期病院としての役割を担っています。ドクターヘリなど空からの後方支援体制やフルセットのがん治療、認知症のケアにも取り組んでいます。他に5つの病院、16の診療所があり、その中に在宅療養支援診療所が7つあります。高齢者介護施設は高齢者人口比で県トップクラスの整備率で、施設の多い地域です。入所定員数も全国平均の1.38倍ありますが、徐々に医療需要量も介護需要量も減少に転じています。

行政の取り組み

三好市は「三好市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を掲げ、移住促進政策に積極的に取り組み、医療と介護の連携を図るとしています。医療関係は保険医務課が担当し、高齢者保健福祉計画は長寿・障害福祉課が中心となり、介護保険事業はみよし広域連合が担当し、地域包括支援センターを社会福祉協議会に委託しています。三好保健所の医療企画課は在宅医療・介護の調整をしています。市は地域包括ケアシステムに向

けて、平成27年度より旧町村圏域別（6地区）の地域ケア会議をそれぞれ年1回開催し、出てきた問題点などを各地区代表者会議で検討し、政策機能会議に反映させようとしています。しかしながら、職種や職位により医療や介護に対する考え方にはまだまだ差があります。また行政も2～3年ごとに部署異動があつて、担当者が変わる度に考えや対応も違ってくるのが現状です。

具体的な活動

三好市医師会では平成26年度27年度と地域連携拠点事業で外部講師を迎えての研修会を中心に組み立てられました。まだまだ十分とは言えずさらに体制を整えるため、本年11月からは在宅医療担当理事も決めました。当院は県の在宅医療ネットワーク構築支援事業をきっかけに、平成25年9月より地域医療に関わる各方面の職種の人たちに広く話し合いの出来る場を設けました。市民も参加した顔の見える関係の構築を図る「在宅ケアを考える会三好」を開催し、現在も月1回継続しています。診療所ネットワークやプライマリ・ケア連合学会に参加し、その成果を会で報告し、地域の中でバラバラな状態の価値観やケアの方法について話し合ってきました。

まとめ

現場での包括ケアに対する考え方は浸透してきていますが、行政はまだ縦割りのままで、今後は組織体制の整備が急務と考えています。（村山善紀）

次回は宮城県石巻市の長先生にお願いする事になっています。（村山善紀）

来年は「はちのへ」大会
(青森県八戸市)

特定非営利活動法人
在宅ケアを支える診療所
市民全国ネットワーク

NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

第23回 全国の集い in はちのへ 2017

かだるべし！
創るべし！
地域のくらし
日本の未来

開催日 2017(平成29)年10月8日(日)～9日(月・祝)
場所 八戸市公会堂・南部会館・八戸商工会館・はっち・八戸グランドホテル

大会長:小倉和也 はちのへファミリークリニック 院長
大会事務局:はちのへファミリークリニック 企画運営室
〒031-0072 青森県八戸市城下4丁目11-11
TEL/FAX 0178-72-3301 E-mail:renkei@hachifc.jp

鹿児島大会の懇親会場にて来年の「全国の集い in はちのへ」の紹介が小倉大会長より行われました。



南国の鹿児島から来年は一転(?)して青森県八戸市での開催となります。港から水揚げされる海の幸、美しい海岸、西には十和田湖、もちろんうまい酒、そのすべてで皆様をお待ちしております。

大会会場



八戸市文化教養センター南部会館



八戸商工会議所



八戸市公会堂



八戸ポータルミュージアムはっち



八戸グランドホテル

第23回 全国の集い in はちのへ 2017 実行委員会スタート

既に春から「準備委員会」を立ち上げており、いよいよ鹿児島大会の終了を受け「実行委員会」としてスタートいたしました。

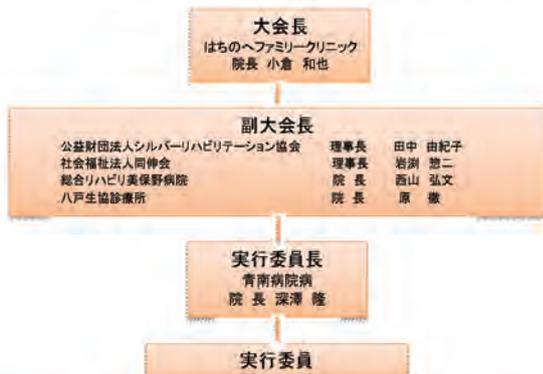
ほぼメンバーの選定も終わり、12月3日第一回実行委員会が開催されました。



八戸ならではのユニークな企画案がいくつか検討されており、八戸市役所前の広場を利用して一般市民の方々に対し、「地域包括ケア」について理解いただける企画なども考えております。

プレ大会については、今後、県内3-4か所、及び大阪（2018年大会）も加え現在検討中です。決定次第皆様にお知らせいたします。

大会運営組織



NPO 法人在宅ケア全国ネット準備実行委員会 準備実行委員 一覧

- 大会長
はちのへファミリークリニック 院長 小倉 和也
- 副大会長
公益財団法人 シルバーリハビリテーション協会 理事長 田中 由紀子
社会福祉法人 同仲会 理事長 岩淵 惣二
総合リハビリ美保野病院 院長 西山 弘文
八戸医療生協協同組合 院長 原 徹
- 実行委員長
医療法人財団 青仁会 青南病院 院長 深澤 隆
- 実行委員
はちのへファミリークリニック 原 寿美子
医療法人 青仁会 青南病 佐々木 健之
八戸医療生協協同組合 上野 ゆかり
八戸生協診療所 生駒 有理
富田 知子
株式会社 アインファーマシーズ 関 修太
アイン薬局八戸店 市ノ渡 真史
アイン薬局東北支店
公益財団法人 シルバーリハビリテーション協会 小野寺 遊
メディカルコート八戸西病院 阿世知 知子
八戸西居宅介護支援事業所 種市 純子
八戸市立市民病院 医療連携室 橋場 龍進
武部 悦子
社会福祉法人 同仲会 大山 哲子
瑞光園居宅介護支援センター 山下 義則
医療法人 すみれ会 白井 握美
グループホーム舟見町 松尾 良子
有料老人ホームすみれーな舟見町 下田 郷子
有限会社 NEEDS 国光 康雄
なかざわ訪問看護ステーション 斉藤 公太
合同会社 アライブコーポレーション 畑山 美恵子
あおい訪問看護ステーション 石戸 育子
公益社団法人 認知症の人と家族の会 泉 早苗
株式会社 ワイズマン 伊藤 宏光
株式会社 プライト・ヴィー 小森田 匠
飯田 友一
- 監事
有限会社 長内 FP 事務所 代表 長内 広文

活動予定

- 平成28年度 第四回理事会
平成29年8月27日
場所…東京
- 平成28年度 第三回理事会
平成29年5月28日
場所…東京
- 平成28年5月から
はちのへ大会
実践交流会演題募集開始
- 平成28年度 第二回理事会
平成29年2月26日
場所…東京

会議日程

風の萌

2016年12月15日発行(第036号)

頒 価：1部50円 会員は無料

◆ 発行 特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

TEL:052-848-8800 FAX:052-848-8801

http://www.home-care.ne.jp/net/ E-mail:zenkokonet@home-care.ne.jp

〒458-0007 愛知県名古屋市長区菟山3-119 カーサフクシマC-32号

◆ 編集「風の萌」編集委員

編集後記

紙面のリニューアルも2号目を迎えました。今回から『新・リレー寄稿—地域包括ケア 地域の現状』の企画をスタートさせました。

皆様方のご協力をお願いするとともにご意見等頂ければと存じます。

今年もあとわずかとなりました。来年も皆様方にとり良い年となりますようにお祈り申し上げます。

(東京事務所/犬童)